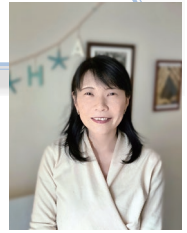




国際化の最前線から



「日本で産んで良かった」と思える 伴走と寄り添いを目指して

NPO 法人 Mother's Tree Japan 事務局長 坪野谷 知美

私たちは、外国人居住者が多く国際アート・カルチャー都市として多文化共生を積極的に推進している豊島区で、2020年に活動を始めました。豊島区に居住する外国人の特徴としては、①若い世代が多い②ミャンマー・ネパールなど来日の歴史が浅い国の出身者が多いことこの2点があげられます。つまり、日本で結婚、妊娠出産・子育てをする世代が多いのですが、日本人でも初めての出産や子育ての場合に鬱などになりやすい昨今、外国の方だとさらに行政などへの届出など各種手続きも煩雑で長時間に及ぶため、負担がとても大きいです。加えて文化・宗教・風習、医療の考え方が違うため、戸惑いが生じやすく、外国人妊婦のマイナートラブルや死産率が日本人よりも多いという統計は偶然ではないと思います。

そうした中、私自身も海外で幼少期を過ごし、怪我や病気の多い私を母が苦勞して育ててくれたこともあり、この活動呼びかけたところ、経験豊かな保健師・助産師・保育士・産前産後ケアセラピストなどがすぐに集まってくれました。そこに10か国30名を超える外国人メンバーが集まり、文化・風習の違いの中での戸惑いに昼夜を問わず笑顔で寄り添ってくれています。具体的には行政・病院などへの付き添い(月に10~15件)、毎月のリアルやオンライン(全国の外国人女性が対象)での母親教室・相談会(月に30~40名が参加)、可愛いイラストつきの医療関係者・保健師とのコミュニケーションボードの開発と無料配布(11言語3種類、年間200セット以上)、産前産後子育てのための日本語教室(この3月より開始)などさまざまなアプローチで、寄り添う活動を展開しています。

現在豊島区子育て支援課や保健所、子ども家庭支援センターと言った行政機関と連携して活動を行っておりますが、最初はコロナ禍での外国人家庭のサポートを機に連携が始まりました。

その後実際に行政の窓口を訪れた外国人ママのサポートや赤ちゃん訪問でサポートを重ねることによって信頼関係ができていきました。現在は保健所や子育てインフォメーションを訪れた外国人女性に、私たちのパンフレットやイベントのチラシを配ってくださっています。来年度は外国人の方が子育てをする時に、本当に役に立つ情報を掲載したオリジナルリーフレットや副読本の作成などを協働する流れになっています。

私たちが大切にしているのは「日本のやり方を教える・伝える」のではなく、当事者の声をまず丁寧に聴くこと、そして日本のシステムの中で「自分の力で」「文化・宗教・風習も大切にしながら自分らしく笑顔で」出産や子育てをしていけるように寄り添い、笑顔で伴走することです。今後益々外国人居住者の増加が見込まれる中、ご縁あって日本に来た外国人女性に「日本に来て本当に良かった・日本で子育てをして良かった」と言ってもらえるように、これからも頑張っていきたいと思っています。



プロフィール

坪野谷 知美 (つばのや ともみ)
幼少期を香港とイギリスで過ごす。
早稲田大学史学科を卒業後保育士になり、主に乳児保育と子育て支援に携わる。その中で産後ケアの必要性を痛感して産前産後ケアセラピストに転身。お客さんとして訪れる在日外国人ママたちの声を聞き、サポートの必要性を感じて2020年NPO法人Mother's Tree Japanを設立